

Q & A

Q1 ワクチン接種をして一週間経ちましたが、注射部位が赤く熱をもって腫れています。副反応ですか？

A:頻度は低いですが、モデルナ社製の新型コロナワクチン接種後5~11日目に「モデルナアーム」あるいは「COVIDアーム」と呼ばれる皮膚の赤みが出ることがあります。遅発性のおだやかな反応です。そのため、次の質問(Q2)への回答に示した処置を行うとよいでしょう。

Q2 注射部位の赤みや腫れが治りません。どうしたら良いですか。

A:自宅でできる一番の対処法は冷やすことです。急激に冷やすと反動で痒みが増すので、保冷剤等をタオルで包む形でゆっくりと冷やすと良いでしょう。また、自宅にある虫刺され用の薬など、かゆみ止めを塗ることも有効です。通常は、このような処置で自然によくなっていきます。

しかし、(1)注射部位の腫れがさらに広がってくる、(2)掻きむしって傷ができて汁が出る、(3)症状がなかなか改善しないなどの状況でしたら、皮膚科を受診し薬を処方してもらいましょう。その際、医師には「モデルナ社製ワクチンを接種した」ということを伝える必要があります。

Q3 注射部位の赤く腫れる症状は、2回目接種で再度出現しますか。

また、2回目接種には問題ありませんか。

A:1回目で「モデルナアーム」が出現した接種者に2回目も同様の反応がみられるかは、はっきりしていません。ただ、もし2回目にも出現したとしても、1回目より数日早めに出てくることが多いものの、1回目より重症になることはないようです。

皮膚症状が出た方が2回目接種をすることは差し支えありません。2回目接種により十分な免疫がつく利益と、皮膚症状による不利益とをくらべると、接種をする方が望ましいと考えられます。皮膚症状が出たとしても数日でよくなるからです。

Q4 接種後1週間経っても発熱や頭痛が続いています。どうしたらいいですか？

A:ワクチンによる発熱は接種後1~2日以内に起こることが多く、3日目にはほとんどの人が解熱しています。しかし、3日目以降も発熱している方もいます。

ワクチンによる発熱か、新型コロナウイルス感染症かを見分けるには、発熱以外に、咳や咽頭痛、味覚・嗅覚の消失、息切れ等の症状がないかどうか、手がかりとなります(ワクチンによる発熱では、通常、これらの症状はみられません)。

ワクチンを受けた後、2日間以上熱が続く場合や、症状が重い場合、ワクチンでは起こりにくい上記の症状がみられる場合には、医療機関等への受診や相談をご検討ください。

Q5 鎖骨上から首にかけて、接種後からしこりが複数あって治りません。大丈夫でしょうか。

A: 現在使用されているファイザー社やモデルナ社の新型コロナワクチンは、原則、三角筋という肩～上腕にある筋肉での接種を推奨しています。ワクチンの成分は、わきの下や首のリンパ系に向かって流れていきます。質問にある複数のしこりは、リンパ節の腫脹です。ワクチン接種後に、接種した側のわきや首(鎖骨上)リンパ節が腫れるのは、抗体を作るために免疫機能が働いている現象でとくに心配いりません。通常は何もしなくても、しこりはだんだん小さくなっていきます。

国内における臨床試験より（厚労省本人のホームページ引用）

リンパ節症	ワクチン 1 回目	発現割合	11.3%
	ワクチン 2 回目		10.2%

その他、要望のあったもの

●2回目接種後の副反応に備えて薬がほしい。

→副反応に対する薬剤対処は、各自で市販薬を購入するなどして対応して頂きたいと思います。

●一人でいるときに体調が悪くなった時の対応はどうしたらいいですか。

→大学 HP に掲載のフォームへ入力または健康サポートセンターへお電話ください。

(土・日は、かかりつけ医または市立病院に連絡しましょう。)

名寄市立大学 健康サポートセンター(kensapo@nayoro.ac.jp)